

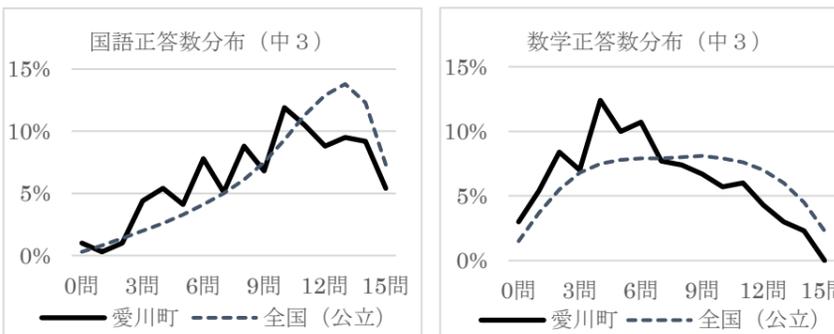
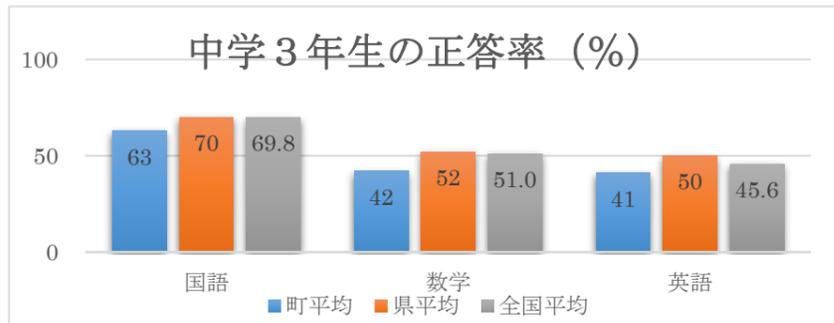
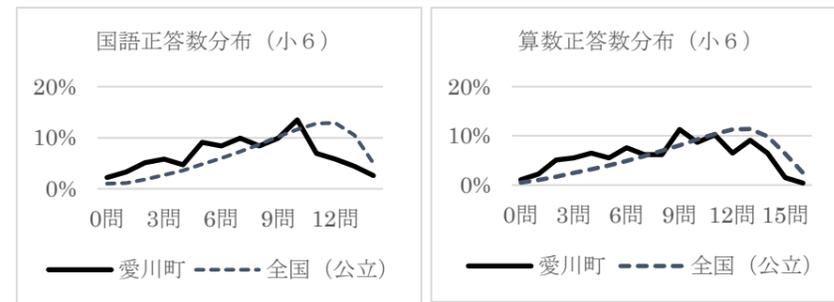
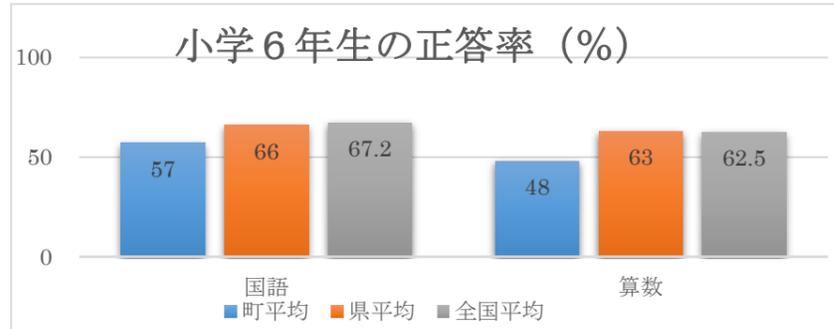
令和5年度 全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生）の結果と今後の展望

愛川町教育委員会

令和5年度に実施された全国学力・学習状況調査について、文部科学省 国立教育政策研究所から報告書と調査結果資料が公表されました。愛川町の「教科に関する調査」と「質問紙調査」の結果から見てくる町の小学校6年生と中学校3年生の課題とその改善策について、学校の先生方とともに分析した結果と今後の展望を報告します。



1 町内児童・生徒の教科に関する調査結果



【小学6年生】

国語は全国・県と比べて約10ポイント、算数は10ポイント以上下回っています。正答数の分布を見ると、国語では8問(全国・県10問)、算数では8問(全国・県11問)が中央値となっており、全体的に中位層から下位層が多い傾向にあります。算数では、過去3年間県平均より10ポイント以上下回っている傾向が続いています。

【中学3年生】

国語は全国・県と比べて約7ポイント、数学は約10ポイント、英語は全国と比べ約4ポイント下回っています。正答数の分布を見ると、国語では10問(全国・県11問)、数学では6問(全国・県8問)、英語では6問(全国7問・県8問)が中央値となっています。小学校からの積み重ねで国語の力が向上している傾向があります。

【参考】R4年度実施町学力検査の結果と今後の展望 (R4年度中学2年生・小学5年生の結果) 右のQRコード→

2 改善策 ※各学校等から挙げられた改善策の具体例

国語

- 「学習の振り返り」をするとき、次時の活動に見通しをもてるように具体的な指示をして活動させる。主体的な学びになるような学習のサイクルを展開する。
- ノート、作文指導などICT機器に頼らない部分の学習にも力を入れる。

算数・数学

- 児童・生徒同士で対話しながら考えさせる。他者に分かりやすく説明する活動を取り入れながら課題解決できる授業を設定する。
- 基礎となる力を定着させるためタブレットを活用するなど、短時間での反復練習などを計画的に取り入れる。また、家庭学習等、主体的に学習に取り組めるよう家庭との連携を図る。

英語

- 覚えている単語を使い、文章を自分で作る機会を増やす。
- 修正・改善を繰り返すサイクルで、学びの自己調整力を高められるような授業展開を図る。

3 町内児童・生徒の質問紙調査に関する結果

◎以下の質問に対して回答した児童・生徒の教科ごとの正答率(クロス集計)
・町平均正答率より高いところに網掛け

質問	平均正答率(%)						
	小学6年生			中学3年生			
	児童数(人)	国語	算数	生徒数(人)	国語	数学	英語
1 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」	87	61.5	50.1	97	70.2	47.6	46.3
2 どちらかといえば、当てはまる	118	56.8	48.6	143	63.2	41.6	39.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	43	51.2	40.6	27	46.7	33.3	28.7
4 当てはまらない	8	42.9	39.8	13	57.4	39.5	29.4
5 話し合う活動を行っていない	2	21.4	50.0	0	0	0	0

質問	平均正答率(%)						
	小学6年生			中学3年生			
	児童数(人)	国語	算数	生徒数(人)	国語	数学	英語
1 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」	14	52.0	49.1	19	70.5	47.7	44.9
2 3時間以上	26	65.7	55.3	68	71.6	52.6	49.6
3 2時間以上、3時間より少ない	57	59.0	47.9	80	65.1	44.4	42.8
4 1時間以上、2時間より少ない	78	58.5	50.4	50	55.1	35.3	36.5
5 30分以上、1時間より少ない	54	50.9	39.7	35	57.7	36.0	30.9
6 30分より少ない	29	52.5	45.7	31	58.5	30.5	30.7
6 全くしない							

上記の調査結果より、授業時間内の話し合い活動の充実が正答率の向上に繋がる傾向が見られる。また、小学生では1時間、中学生では2時間ほどの家庭学習を行うことで一定の成果が得られる。タブレット端末を利用したドリル学習のなども有効な手立てと感じました。

4 今後の展望

「〇〇の勉強は好き」「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」など学校生活への満足度は高い傾向があり、児童・生徒の思いを学習の中で「個別最適な学び」や「協働的な学び」として進めていくことが必要です。一人ひとりにあった柔軟な指導、多様な考えから良い学びへと繋げる指導を推奨し、児童生徒一人ひとりの学習意欲の向上を目指します。

国語の「話すこと・聞くこと」領域では、町の中学3年生の平均正答率が79.3%と県や全国に約3ポイントと迫っており、話し合い活動を含めた協働的な学びによる効果が表れたと考えられます。一方、小学6年生については、約10ポイント下回っていることから、自分の考えを深めたり、広げたりする活動の充実が必要と感じます。記述式の問題に対する無回答率は、小学校がやや多い傾向にあります。算数では、小学6年生において記述式の正答率が平均を大きく下回っていました。中学3年生英語の「聞くこと」「話すこと」領域では、全国の平均正答率に「聞くこと」では約3ポイント、「話すこと」では約1ポイントに迫っています。日頃、外国語に触れ合うことが多い地域ならではの結果と推測されます。